

様式2 令和5年度 清瀬市立清瀬第四中学校 学校評価表

学校教育目標	人間尊重の精神に徹し、自己の能力伸長と人間形成に努める人を育成する 創造 温情 実践 健康	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
目指す学校像(ビジョン)		【育成を目指す資質・能力】 ○夢や志をもち、自分で考動し、未来を切り拓く力 ○確かな学力、困難を乗り越え諦めず学び続ける力 *主体性・確かな学力 ○自他の命を大切に思う心、多様性を認め他者と対話し協働する力 *多様性の理解・特別支援教育の充実
【目指す学校像】	保護者・地域から信頼され、誰もが通いたい・通わせたいと思う学校	
【目指す児童・生徒像】	夢や志をもち、教養と品格を備え、自分で考動し未来を切り拓く生徒	
【目指す教師像】	教育公務員としての使命を自覚し、熱意と向上心に溢れ、教育のプロとして主体性を発揮する教師	

前年度までの学校経営上の成果と課題	【成果】教員の授業力向上に向けた取組(校内研究授業の実施、授業観察&助言・支援のOJT)、教職員が一体となり対応したステップタイム(校内フリースクール)等特別支援教育への取組、生徒・保護者に寄り添う意識の醸成 【課題】「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の実践、授業のスタンダード化、職層・職責の理解と言動、協働して能動的かつ意欲的に動く組織の構築
-------------------	--

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
		取組指標	成果指標		
確かな学力の向上	○毎時間の授業で「目標・見通し・振り返り」をroutine化する。 ○単元確認シートを活用した研究授業・協議を年3回以上実施する。	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業の目標を明確にし、振り返りを行うなど授業のroutine化を進め、授業規律の確立を図った。 ○単元確認シートを活用した研究授業を学期に1回以上実施した。管理職による授業観察及び協議を行った。 研究授業等を活用した授業力を高める努力は常に必要である。 ○朝学習や朝読書により、読解力や言語能力等基礎学力の定着・向上を狙った取組を行った。 ○情報モラル教育を充実させ、タブレットの校内使用や持ち帰りの自由化の基盤を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用した授業改善への取組を推進する。 ・情報モラル教育を充実させ、自由化の利点を引き出す。 ・授業のスタンダード化(目標提示、振り返り)完全定着を目指し、分かる授業を実践し、教科(授業)好きを増やす。 ・朝の時間(10分)を活用した読書及び新聞学習を継続し、全ての学力の基本となる「読む力」、「書く力」の地道な育成を図る。 ・校内研修の活発化、校内研究としての研究授業の精度向上、授業観察及び観察後の協議の実施、生徒による授業アンケートの分析を授業改善に生かす取組等のさらなる推進を図る。 ・校外研修の積極的な受講や自己研鑽を奨励していく。
	○意図的・計画的かつ徹底して朝学習・朝読書を実施する。 ○SNS教育等と併せたICTの自由化を進める。	3	3		
豊かな心の育成	○教職員の連携力・観察力の強化を図る。 ○アンケート調査の実施と分析を定期的に実施する。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムを活用し、ペーパーレス化等迅速な情報の共有化を進め、教職員の連携力・観察力の強化を図った。 ○ふれあい月間等各種アンケート結果を分析し、生徒の心の状態や実態把握を行った。 ・教職員間でもタブレットを有効活用し、ペーパーレス化を進める取組は素晴らしい、迅速な情報共有につながると思う。 ・各種アンケートの分析結果を共有し、子供の小さな変化を見逃さないようにしてほしい。 ・四中の生徒会は、行事やボランティアへの取組姿勢が積極的で良い。 ・様々な活動、学校の様子がホームページ、学年だより等で適宜発信されている。 ・運動会や合唱コンクールが素晴らしい。 ・「主体性の育成」と「放置」をはき違えることなく指導してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システム、ホーム&スクール及び学校HP等を活用し、校内外におけるペーパーレス化を推進する。 ・全情報の効率的で効果的な共有化を進め、教職員の連携力・観察力のさらなる向上を図る。 ・働き方改革、コスト削減の推進を図る。 ・生徒会を中心に、委員活動やボランティア活動等、生徒主体となる活動を引き続き実施していく。 ・運動会、合唱コンクール、修学旅行、スキー移動教室、職場体験及び校外学習等で生徒が活躍できる機会を創出していく。
	○行事等全教育活動を通して、生徒が主体性を発揮する機会の創出を図り、積極的に取り組ませる。	3	3		
健全な体の育成	○社会人・教育公務員として大人が見本となる。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員が社会人として生徒の模範になれるよう意識を高め、全体の奉仕者として使命を全うし、教育公務員として高い見識をもって生徒と接するよう心掛けた。 ・生徒にとって一番身近な社会人は教員である。常に生徒の模範となるよう意識を高め、教育公務員として高い見識をもって生徒に接してもらいたい。 ・四中の生徒が穏やかなのは、先生方の御指導のお陰だと思う。 ・部活動はよく活動できていると思う。サッカー部の都大会出場は素晴らしい成果である。指導員等外部人材も適切な方々が選ばれている。 ・日常に適切な運動を取り入れ、栄養のある食事の調理法等を学ぶことも、健康教育・食育において効果的だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって社会人の代表となることが当然として捉えていく。 ・教育公務員としての意識を常にもち、「学校の常識＝社会の非常識」とならぬよう社会人としての常識やマナーも身に付けた大人としての振る舞いを今後も忘れず実践していく。 ・薬物乱用防止教育、がん教育、食育等、今後も外部人材を活用する等しながら健康・安全教育を推進していく。 ・部活動指導員等と協力し、効率的・効果的な活動や、生徒の自主性・自発性を一層促す環境構築を行いながら、より円滑な運営を目指す。
	○体育・保健教育及び食育を中心に、日常的に運動に親しむことの必要性、健康・安全及び防犯の重要性を理解させ、健全に生活する力を育む。	3	3		
特別支援教育の充実	○全教職員一体となり、生徒・保護者に寄り添い個に応じた指導に当たる体制を構築する。 ○外部機関との積極的な連携を進める	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒の親は必死です。全教職員が一体となり生徒・家庭に寄り添う取組、外部機関との連携を図る体制は素晴らしく、今後も強く希望する。 ・校内フリースクールの体制は本当に素晴らしいと感じている。教室に入らなくても、学校に居場所があることは大変意義のあることだと思う。今後も先生方や大学生の方々の対応に期待する。 ・特別な配慮を要する生徒は増加傾向にあると聞く。彼らへの細かな対応には専門の先生から助言をいただく等しながら、今後も丁寧に対応してあげてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な悩みや課題を抱える生徒・保護者に対し、全教職員が一体となってサポートしていく体制を強化していく。 ・子ども家庭支援センター、児童相談所、適応指導教室等外部諸機関とのより効果的な連携を行い、個に応じた対応を目指す。 ・巡回支援教員、スクールカウンセラー及び巡回心理士等と協力して特別支援委員会を定期で開催し、対応方法の検討や生徒等の情報共有が確実に進んでいるようにしている。 ・教室に入れない等の生徒の居場所として、図書室を活用した校内フリースクール活動のより一層円滑な運営を目指す。
	○全教職員一体となる指導体制を構築する。 ○日本社会事業大学等外部人材との連携強化を図る。	3	3		
本校の特色	○環境学習に焦点化、経験・体験重視、系統的・計画的に進める。 ○全教育活動を通して考動させる機会を創出する。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間で、経験・体験を重視したSDGs学習を行い、課題発見～まとめ・発表学習に取り組むとともに、カテゴリーを系統化し、3年間を見通した学習が行えるよう、カテゴリーを系統化した。 ○様々な活動で生徒の主体性を育む場を創出した。 ○単年で終わるのではなく、3年間を見通して取り組む活動は生徒にとってつながりのある学習となり、しっかりと身に付くと考えている。多様性を理解させ、主体的に他者と協働し学び続ける力を養う教育は素晴らしい。成果を発信して知らせてほしい。 ○地域人材や外部団体による様々な体験活動や場面に応じた学習を行うことは良いことだと思う。 ・普段あまり関わることのない「赤ちゃんプロジェクト」「認知症サポーター」等を通じて思いやりの心等を養うことは、これから生きていく上でとても大切な活動だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDの概念をベースに課題の改善を図る、即ち「ESDを目指す四中」を特色として、外部人材の活用・地域連携を促進させながら学校経営の進歩を図る。 ・教科横断的な視点でSDGs学習を展開していく。特に「総合的な学習の時間」では、3年間を見通した系統的なSDGs学習を実践していく。 ・本物の経験や体験を重視した教育活動を推進し、持続可能な社会の創り手を育成していく。 ・将来の中小連携を見据え、生徒会及びキャリア教育委員会を中心に、四小、芝小との連携強化、協働学習を推進していく。
	○SOSの出し方、赤ちゃんの力、命の講演会、議論する道徳、認知症サポーター講習等を実施する。 ○地域人材の活用を進める。	3	3		